３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.483

ForestGood2018表彰式に参加しました

【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

いよいよ課題の乾燥小屋の解体の日が来た。お願いしていた大工の長谷川棟梁が10：00に嵐山の基地にお越しになったので、早速作業に移る。中高生の材の運びだしの続き作業以外は全員が乾燥小屋に結集し長谷川棟梁から作業手順の説明を受け分担場所に分かれ作業を始めた。まず、防水シートを左右撤去（撤去された防水シートに打たれた釘や鋲を抜く係あり）。

次に野地板を剥がすのが大変であった。2,500本位の釘で止められているため分担して、しかも野地板の原型を極力残し、再利用できるよう努めた。

次に垂木(たるき）を取ると、通し柱と棟木だけの原型が出現した。問題は柱と棟木の貫をどの様にして抜くかが我々素人の疑問であったが、プロの大工からすると、いとも簡単なことだった。

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

午後の作業進行は、雨や雪に対処するため屋根の片方部分を残し、その下に機材を移すことを考えたが二週間後の事で天候がどのように変化するか微妙なので午後から一気呵成に反対側の半分も解体し、柱と棟木の構造だけにしておくことにした。今日は交流センターで新年会が予定されているため時間通りに終わらせる必要があったからだ。

何とか時間内に終了させと事ができたことは満足であった。貫を簡単に抜く方法とは、屋根の構造体から母屋（棟木に並行している太い横に走る材）と棟木を取ると束石に乗る

柱とそれに掛かる太い棟木だけになるので、束石毎横に倒した後、柱に貫かれた棟木を地上で抜くことができるというのがプロの教えであった。

整備班の仕事は思った以上に進んだ。乾燥小屋に入っていた資材にブルーシートを掛け雨や雪の防止策として作業を終えた。新年会には多くの参加があり新年度の活動の安全と進行を誓い無事終了した。長谷川棟梁には知恵を授けて頂き大変感謝しています。ありがとうございました。

小林　照夫（本会、理事）

今月の地球環境部の活動は望星高校中心となった。ということでせっかくの機会だから、と桜井先生に見ていただき、2009年に望星高校が植えた杉のチェック。いわゆるビール瓶の太さになって来たので、間伐が必要か、そのポイントについて教えていただいた。結果からするとまだしなくてOK。枝の張り方、広がり方、枯れ上がり方を見るとまだ大丈夫ということ。面白かったのは、おそらくもともと生えてきたカラスザンショウの方が成長が早く、その周りだけ杉の成長が明らかに遅いこと。日光を奪われ競争に負けた姿がはっきりと観察できて、造林的には切ってしまって構わないのだろうが、学習用に残すことに。続いて、少し望星の森を登った脇にあるこれも2010に植えたケヤキ50本。日当たりも良くなくかなり枯れてしまっていた。が、背丈を超えて頑張っているものが見つかっていたのでこれを皆で探し、テープで誤伐されないようにする作業。葉がついていればすぐわかるのだが、幹だけで判別。なかなかの高難易度。葉が出始めてきたら再度確認することになった。午後からはForesTo Classの搬出の手伝いを、と考えていたがまだそこまで作業が進んでいないということで作業道沿いの間伐を２本。まだきちんと取り組んだことのない間伐作業に苦戦しながらも望星高校の手で無事に終了。基地に戻り、いよいよこれまで搬出した材を製材に出すために軽トラに積むぞ、となったものの、よく見ると右前輪が潰れている！新車だったような気がするのだが扱いが荒かったためか、なんだか申し訳ない。ジャッキアップし、予備タイヤと交換し、そのまま駅前の整備工場へ入院。後日回収し、MORIMOの製材所の仮置場に搬入。近々板となり帰ってきます。３月末に学芸大で木工大会を予定しています。

宮村　連理（本会、副理事長）

桜井尚武の森のコラム

「ニガキ（*Picrasma quassioides*）のこと」

図1．ニガキの複葉
20080620藤沢新林公園

図2．ニガキの複葉
20090424藤沢新林公園

互生する奇数羽状複葉でキハダ（*Phellodendron amurense*）同様苦みのあるのが特徴です。葉も皮も幹もどこも苦いので苦木の名がついたのでしょう。この苦み成分は漢方薬として扱われ、市販の胃薬にも使われているそうです。

分布は日本全土から朝鮮、中国、インドまでに及ぶといい、各地で民間薬とされました。嵐山のスギ林、ヒノキ林の下生えにもよくみられます。小さいのが結構たくさんあるので親木がどこかにあると思うのですがまだ見つけられていません。大きなものは高さ10m以上、目通りの太さは40cm以上にもなるといいます。

奇数羽状複葉の小葉は9〜11枚で、鋸歯が葉の表側に反って波状にみえます（写真1、2）。葉質は薄く膜質で裏側が少し白っぽい場合が多く見分けるのはそれほど難しくありませんが、決め手は苦みです、齧ってみて確認するのが一番です。忘れられない経験になりますよ。

材は緻密で硬く、道具の柄や家具、履物などに使われたといいますが大量に採れるものではないので一般には出回らないものだと思います。食器や椀、弁当箱のようなものには苦みが移るので使われないそうです。齧ってみて、あるいは齧らせてみて、自然の味を楽しむのに具合のいい植物だと覚えておいてください。

※前回のキハダの学名が間違っていました。*P. amurenss*を*P. amurense*と訂正します。

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】ForesTo Class

新フィールド入山へ入る前に…

先月は入山への作業ルートの見当をつけていきましたが、今月は新年の始まりの活動として嵐山の材搬出について取り組みました。

一緒に活動させていただいてるNPO法人 緑のダム北相模は活動拠点である嵐山からの移動準備を進めており、林内に留めている間伐材の搬出が課題となっています。もちろん人海戦術でのやり方でもいいのですが、我々ForesTo Classのメンバーである林業従事者の搬出手法を用い、デモンストレーションしてみようと試みました。

“単線循環式軽架線”と業界では呼ばれているそうで、わたしにはチンプンカンプンのまま作業がスタート。

※画像のようにワイヤーを貼っていきます。
イメージはスキーのリフトのように、高いところから人の力を使わずに木材を搬出する手法です。

元々あるワイヤーを引っ張る動力装置の修復作業からの開始となり、時間に追われる展開となりました。まずは装置のポンプの修復作業から始め、ワイヤーを外し200メートルのものに差し替えていきます。

そして午前中は支点となる木にスリングをつけてワイヤーを張り巡らせるところで終了。

まっすぐ角度をつけすぎるとスリングの滑車の負荷が大きくなるので斜めに、L字になるくらい角度を持たせます。学生時代には、こういった知恵、現場での体験を共有していくことも大切にしていたなと思い出しました。

午後からは悪戦苦闘。お昼も食べずにワイヤーが絡まないように装置に巻きつけていくのに時間がかかり、今回は設置までで終了となりました。来月2月17日はヨーイドンで搬出できるようにしていきます。そして春からはいよいよ入山からの

作業道を着手。
　高尾山から続く小仏峠と孫山、そして小原をつなぐ道への展望も視野に入れていきます。
幻の三十三曲がりを追い続ける旅がスタートです。

滝澤　康至（ForesTo Class）

【若者の森づくり】地球環境部

　今回私たちはForestGood2018にて授賞した林野庁長官賞の授賞式に、緑のダム北相模として参加した。授賞式では、賞の授与だけでなく、私たちが今まで行ってきた活動について簡単に紹介した。緊張はしたが、紹介時の周りの方々の反応も良く、自分たちの活動についてさらに誇りに思い、自信がついた。
　私たちの他に授賞された企業の方々の紹介も拝聴したのだが、今回の主なテーマである「間伐材の利用」に沿った、斬新なアイデアの商品ばかりで、どれも興味を持った。普段、積み木にするという利用方法しか行っていない私たちにとって、今回のイベントは切った木のその先についての視野を広げる良い機会になったと思う。

石塚　千智
（東京学芸大学
附属小金井中学校３年）

【若者の森づくり】Foresto Nova

　一年の終わりを告げる後期テストを乗り越えまた新しい年度を迎える季節がやってきました。新入生を迎える準備を進めると同時にForest Novaを旅立たれる先輩もいます。旅立たれた先輩方に恥ずかしくないよう残る部員達で一層精進していきたいと思います。
　新年度を迎えるにあたりForest Novaは今活動内容のさらなる充実を目指し暗中模索しています。その目的としては新入生に興味を持ってもらうこともありますが校内での知名度を上げるということも含まれています。その為の例として、校内で工作をするという案などが出ています。これにより木の伐採などは不得手な人にも興味を持ってもらいつつ今までの技術の継承も出来ると考えました。このように多岐にわたる活動をして力をつけていけたらと思います。これからのForest Novaの活躍にご期待ください。

西山　香瑠（Forest Novaｊ）

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団
　　積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
　　パタゴニア環境助成
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
　　東京学芸大学環境教育研究センター、
　　（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。